而して是れは僕等の様な實際運動を續けつゝあるものゝ立場から見れば地味で意氣地がない様に見えて、内面から頑強に資本家に肉薄しつゝあるものとして大いに喜ばしく思ふ次第である是れは勞働爭議の戰術が進化して巧妙の域に達せんとしつゝある結果であつて、決して退化でもなければ、屈伏でもないのである。まだ一般社會から今日の爭議を暫く觀察しつゝある間は勞働運動は中々困難で、吾々の目的を達成せしめん爲めには、勞働者の教育と相俟つて、一般社會に斯ぶした思想を注入し宣傳する必要がある。

西尾末廣

「今日の經濟界の事情より勞資界の諸問題を考察すると、今日勞働爭議を起す事は、資本家には第一に損失を招くには違いないが、勞働者に於ても決して策の得たるものではない、經濟運動としての勞働爭議は、資本行營の好況時代に於てより深刻に起さるべきもので、政治的勞働運動の場合に於ては、今日の如き不況時代に對策を構ずる方が先づ有利と見る事が出來る。乍然吾々は度々宣言を繰り返して居る事であるが、實際政治運動は直接吾々に福利を齎すものではないから、吾々は是の方面の運動は餘り好まぬ。只經濟的直接行動のみが吾々を今日の窮地から脱せしむるのである。さうすれば何より好況でなければ

財團法人協調會大阪支所